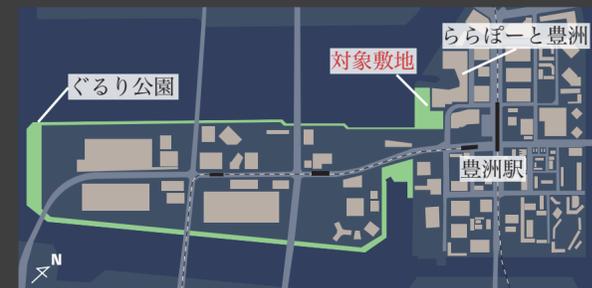


# チャリンこ テラス

## 01. SITE

豊洲ぐるり公園（東京都江東区）



## 02. PROBLEM

【箱的駐輪場】

駐輪場は目的地に自転車で訪れる選択肢を人々に与える。自転車の利用は環境問題、健康問題など多くの利点があり、特に江東区では多くの利用者がいて対象の敷地には過剰に停められている現状である。その一方で、駐輪場は常時利用されているわけではない。日中と夜間、平日と土日祝日など時間によって駐輪台数は大きく異なる。また、駐輪場は駐輪すること以外機能を持たないので、都市において可能性を秘めている空間といえる。



## 03. PROPOSAL

### 03-1 仮設実施による調査

【コミュニティのハブ】

自転車を収容するための箱だと捉えることのできる従来の駐車場の形態を変化させるべく、自転車利用が促進される社会での駐輪場の在り方として人々がアクティビティを起こせるような機能を加えて行くことにした。駐輪場が公園利用者同士のコミュニティのハブの役割を担い、かつ公園をもっと気軽に有意義に楽しめるような場所になるよう再設計した。



### 03-2. 展望

【利用されやすいもの】

従来の駐輪場には見受けられなかったが、空間を作ることによって駐輪以外の使われ方をされることができた。しかし、まだ公園の一部として気軽に利用する人が少なかった。公園という自由度の高い場所でも使われ方が明確で気軽に使われるデザインにすることでより公園に馴染むだろう。そこで、まず公園内で一般的に行う「座る」という行為に焦点を置き、そこから変化を加えて休憩や食事、会話などを気軽にできる空間を提案する。それにより以前以上に駐輪場はコミュニティのハブとしての意味をなす。

## 04. VISION

【分散化】

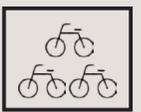
広大な公園に対して一つの駐輪場では人々の行動範囲が縮小されてしまっている。駐輪場を様々な場所に分散させ配置していくことで人々は自転車とともに公園内を回遊できるようになり、公園内の新たな魅力の発見および体験をすることができる。そこで単なる駐輪場ではなく、このようなチャリンこテラスを配置することで駐輪と体験を共存させることを可能にしている。駐輪するだけでない新たな駐輪スポットにより、人々の活動の場が広がる。



### 03-1. 仮設実施による調査

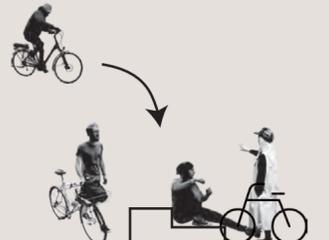
New Bicycle Spot

【駐輪】



自転車を収容する箱型の駐輪場

【駐輪】 + 【座る】



公園を楽しむための駐輪場

Material

材料として「再生パレット」を利用する。



利用していない再生パレットを

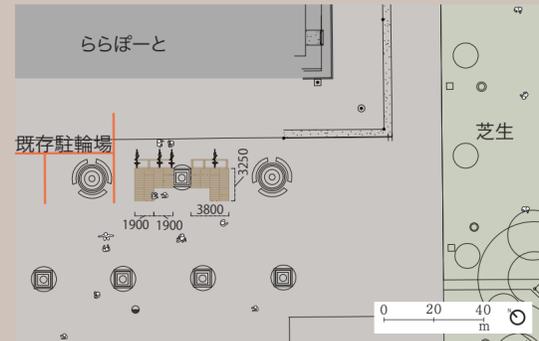


パレットを利用してパレット同士を固定し

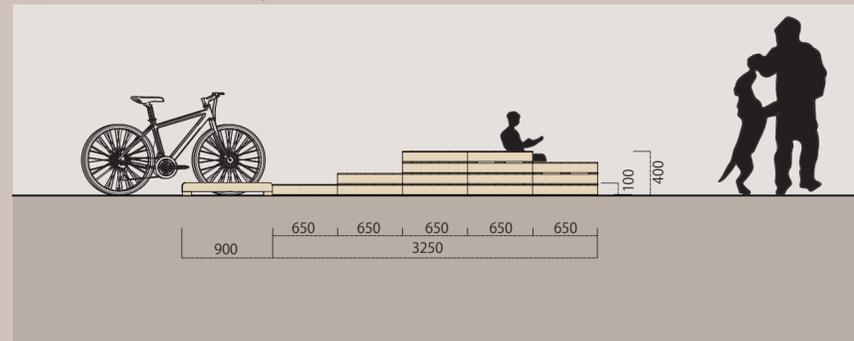


駐輪場に新しい、人々が滞在できる空間の創出

◆配置図兼平面図



◆南西立面図 scale=1/50



◆実施写真



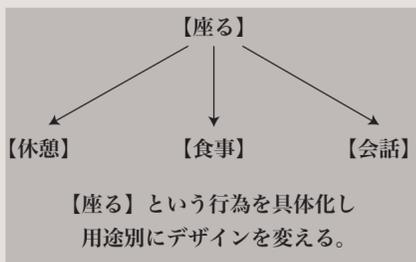
### 03-2. 展望

Proposal

【駐輪】

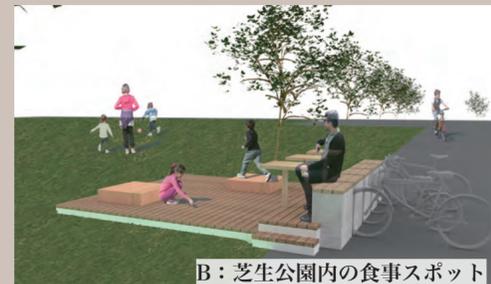


【座る】



Diagram

用途の明確化を図るデザイン提案。



代表者名：渡辺 佳英  
 mj22154@shibaura-it.ac.jp